

一般社団法人全国地質調査業協会連合会の傘下で、全国9つの土質試験協同組合で構成されるジオ・ラボネットワークの第8回技術研修会が25、26日の2日間、金沢市の協同組合土質屋北陸で開催され、技術力向上や技術者倫理など幅広い観点から社会貢献のあり方などを議論した。

初日は、土質屋北陸の市山勉理事長が開催地としてあいさつし、歓迎の意を表した。土質試験管理者養成講座では、「同試験管理者とは」や技術者倫理、同試験業務のマネジメントの講義に続き、座談会で業務全般に関する疑問や対応、提案などで意見交換した。2



ジオ・ラボネットワークの第8回技術研修会＝金沢市内

「倫理力高め、確かな技術」

ジオ・ラボネットワークが研修会

日目は一軸圧縮や簡易三軸CUの試験のほか、試験機や具体的試験方法などを見学。話題について、関西地盤環

境研究センターの西形達明顧問は、「自己にできるようになる」と強調した。土質試験業務のマネジメントに関し、北海道土質試験協同組合の折章専務理事が、「土質試験機関の最終目的は、正確な試験データを提供すること、顧客の要望に応えることに信頼を得ることにある」などと語った。

し、得られた結果を技術フォーラムなどで発表することが大切。仕事に対する自信も生まれる」と指摘し、「そうした積み重ねで正確な試験と確かな信頼性が生まれ、発注者に対して合理的な説明が

全国9組合における業務の円滑な稼働、技術力向上のほか、日常業務の相互補充や災害時の復旧・復興に貢献している。

**土質屋北陸で開催
発注者にも信頼性**